

途上国・へき地で医療

国際医療奉仕団
ジャパンハート 吉岡 秀人氏



子どもを診察する吉岡さん(左)＝ミャンマーの病院、ジャパンハート提供

医療の届かないところに医療を届ける。これが「国際医療奉仕団ジャパンハート」の基本理念だ。医師と看護師約20人が中心となって、海外ではミャンマー(ビルマ)やカンボジア、国内では離

島やへき地で活動を続ける。代表の吉岡秀人氏(43)は大阪府吹田市出身。小児救急医の勤務を経て、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)のスタッフとして、95年から年間ミャンマー

に赴いた。子どもの手術の技術を磨くためにいったん帰国し、04年にジャパンハートを設立した。スタッフ全体で、07年度は数千人の患者を診療、約千件の手術を実施した。若い医師向けに、自分の知識を生かして途上国での医療経験を積み、資質向上につなげる実地研修プログラムも実施。ジャパンハートで研修した看護師らでつくる「海を越える看護団」は、現地での看護師育成や保健衛生指導にあたっている。

奨励賞

堺市は「まだ医療活動が良好とは言えない途上国に医療を提供するとともに世界に通じる優秀な医師を育成し各国に広げてゆく活動は意義深い」と評価する。吉岡氏は「私が受賞したこと、この賞の価値が高まったと後に言われるよう、努力していきたい」と話す。

堺市が国内外で平和活動に取り組む個人・団体を顕彰する「自由都市・堺 平和貢献賞」の第1回の受賞者が、NGO「スリランカ国民平和評議会(NPC)」専務理事のジハン・ペレラ氏(49)に決まった。民族紛争が続くスリランカで、武力による解決に走る当事者双方を批判し、非暴力による和平実現に向けて尽力している点が評価された。奨励賞に選ばれたNGO「国際医療奉仕団ジャパンハート」代表の吉岡秀人氏(43)、ネパールで女性教員を養成するNPO「日本ネパール女性教育協会」と併せて、その活動を紹介する。(浅倉拓也、石前浩之)

第1回自由都市・堺 平和貢献賞

ペレラ氏の受賞理由 (要約)

民間による平和構築の取り組みは、民衆に平和を求める力を生み出すもので、ペレラ氏の活動は現在、さらに近い将来もますます重要になると確信している。その活動の効果はスリランカ国内にとどま

自由都市・堺 平和貢献賞



中世に自治都市として栄え、千利休らが輩出した堺市が07年度に創設した。「都市の発展には平和が欠かせない」との発想で、国際平和や人権尊重の重要性を自治体として国内外に発信する狙いがある。主にアジア地域を中心に活動する個人や団体から選び、顕彰することになっている。賞金は300万円。奨励賞は各30万円。選考委員は、上田正昭・京都名誉教授、明石康・元国連事務次長、川島慶雄・大阪名誉教授、千玄室・茶道裏千家前家元、多谷千香子・法政大教授。朝日新聞社が後援している。